

平成27年7月29日(水)

老球の細道150

女子だから、・・・だから

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ミニのあるコーチからこんな話を聞いた。

「女の子はできなくなるとなぜすぐに泣くのだろうか？ちょっとぶつかったりすると、すぐに泣いてプレーをやめてしまう」

また中学のあるコーチもこんなことを言う。

「男は練習でビハインドやレグスルーのドリブルを覚えると積極的にゲームで使おうとするが、女子はせっかく練習で覚えたのにゲームになるとまったく使おうとしない。何でなのでしょうね？」

かつてこんなこともあった。ミニの長身の女の子にワンハンドシュートを教えて上手になった。その後ゲームで使っているかどうか見たら、また元の両手シュートに戻ってしまっていた。周りが両手シュートなので自分だけワンハンドでやるというのが恥ずかしいということだったそうである。またある選手は、ワンハンドでシュートをしたら、コーチから「かっこつけているな！」と注意をされたという。女子は女子特有のプレーがあるという間違っただけで、周囲に合わせて目立つのを避けるという誤った本能(?)のたまものなのだろうか。

このような危惧を今年の県中体連女子で優勝した古殿中エースNO5の選手が解決してくれた。本来あるべき姿なのだが県中体連の場では異彩を放っていた。なぜならワンハンドでどこでもシュートができ、ドリブルも男子顔負けのフェイントができる。全てのチームからマークされたが、ワンハンドでボールを自由自在にコントロールできるため、パスするエリアが広く、どこにでもパスを通しアシストプレーも素晴らしい。これから福島県の女子が目指さなければならない「男性的プレー」をこの選手は見事に表現していた。

日本で世界に通用する女子プレーヤーは皆男性的プレーを身上としている。WNBAでプレーする渡嘉敷、日本代表でプレーする大神、吉田、すべて男性的なプレーで外国人プレーヤーに対抗する。3人ともワンハンドシュートで3Pを平気で打つ。ペイント内ではワンハンドでどこからでもシュートが打て、シュートブロックもかわす。古殿中NO5の子も大神、吉田を彷彿させる。

バスケットボールにおいて男子と女子の違いは何か。「ダンクシュートができるか、できないか」という1点しか私は認めていない。ファンダメンタル、プレーに男女差はない。コーチが勝手に「女子だから」という発想で、女子のプレーをますます矮小化しているのではないだろうか。女子のプレーは男子に近づけばよい。シンプルである。

世の中は、女子の首相、社長、校長、管理職、リーダーと男女の格差など考えられなくなってきている。ついこの間も某有名大企業の女性管理職が薬物乱用で逮捕される事件があった。大事件まで男女格差はなくなってきている。男女の違いは出産能力の有無と筋力が平均して男子が少し強いという事くらいなのではないだろうか。

女だから、ミニだから、「・・・だから」はコーチが勝手に決めつけている錯覚である。自分で決めつけているからできない。自分の身の回りのレベルの低さに迎合しているからできない。世界の超一流プレーとアスリートの取り組む姿勢を見よ。男女差などない。